



アラームの設定

Cisco Unified Presence Serviceability のアラームでは、管理者がアラームやイベントの設定およびアラーム メッセージの定義を行うことができるので、システム管理者やサポート担当者が Cisco Unified Presence の問題をトラブルシューティングするのに役立ちます。管理者は、アラームとトレースのパラメータを設定し、この情報を Cisco TAC のエンジニアに提供します。

管理者はアラームを使用することにより、システムの実行時の状況と状態を表示して、問題を解決する修正処置をとることができます。たとえば、電話機が登録済みで機能しているかどうかを判別できます。アラームには、説明や推奨処置などの情報が含まれています。また、アラームの情報には、アプリケーション名、マシン名、およびクラスタ名が含まれているため、ローカル以外で起こった Cisco Unified Presence の問題をトラブルシューティングするときに役立ちます。

クラスタ内の Cisco Unified Presence サーバ、および各サーバのサービスにアラームを設定できます。アラーム インターフェイスは、複数の宛先にアラーム情報を送信するように設定します。それぞれの宛先には、固有のアラーム イベント レベル (Debug から Emergency まで) を指定できます。アラームの収集および表示には、Real-Time Monitoring Tool を使用します。

サービスがアラームを発行すると、アラーム インターフェイスは、選択されたモニタ (たとえば SDI トレースや Cisco RIS Data Collector) にそのアラームを送信します。モニタは、アラームを転送するか、または最終的な宛先 (ログ ファイルなど) に書き込みます。

この章は、次の項で構成されています。

- [サービスに対するアラームの設定または更新 \(P.3-2\)](#)
- [アラーム宛先の設定値 \(P.3-3\)](#)
- [アラーム イベント レベルの設定値 \(P.3-4\)](#)

サービスに対するアラームの設定または更新

この項では、Cisco Unified Presence のサービスにアラームを設定する方法について説明します。



(注) SNMP トラップおよびカタログの設定は、変更しないことをお勧めします。

標準のレジストリ エディタの使用方法の詳細については、OS のオンライン マニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [Alarm] > [Configuration] の順に選択します。

[Alarm Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン ボックスから、アラームを設定する対象のサーバを選択し、[Go] をクリックします。

ステップ 3 [Service Group] ドロップダウン リスト ボックスから、アラームを設定する対象のサービスのカテゴリ (CUP など) を選択し、[Go] をクリックします。

ステップ 4 [Service] ドロップダウン ボックスから、アラームを設定する対象のサービスを選択し、[Go] をクリックします。



(注) ドロップダウン リスト ボックスには、すべての (アクティブおよび非アクティブの) サービスが表示されます。

[Alarm Configuration] ウィンドウには、選択したサービスのアラーム モニタとイベント レベルのリストが表示されます。

ステップ 5 表 3-1 の説明に従って、使用するアラーム宛先のチェックボックス (1 つまたは複数) をオンにします。

ステップ 6 [Alarm Event Level] ドロップダウン リスト ボックスで、表 3-2 の説明に従って、必要なイベントレベルを選択します。

ステップ 7 選択したサービスの現在の設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、[Apply to All Nodes] チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 [Save] ボタンをクリックして、設定を保存します。



(注) デフォルトを設定するには、[Set Default] ボタンをクリックした後で、[Save] をクリックします。

追加情報

P.3-4の「関連項目」を参照してください。

アラーム宛先の設定値

表 3-1 では、アラーム宛先の設定値について説明します。

表 3-1 アラーム宛先

名前	宛先の説明
Enable Alarm for Local Syslogs	<p>SysLog Viewer。Cisco Unified Presence のエラーは SysLog Viewer 内のアプリケーション ログに記録され、アラームの説明と推奨処置が提供されます。SysLog Viewer には、Serviceability の Real-Time Monitoring Tool からアクセスできます。</p> <p>SysLog Viewer でログを表示する方法については、P.11-1 の「RTMT SysLog Viewer の使用」を参照してください。</p>
Enable Alarm for Remote Syslogs	<p>Syslog ファイル。Syslog メッセージを Syslog サーバに格納し、Syslog サーバ名を指定するには、このチェックボックスをオンにします。この宛先が有効になっていても、サーバ名が指定されていない場合、Cisco Unified Presence は Syslog メッセージを送信しません。</p> <p> (注) CiscoWorks 2000 にアラームを送信する場合は、CiscoWorks 2000 のサーバ名を指定します。</p>
Enable Alarm for SDI Trace	<p>SDI トレース ライブラリ。</p> <p>SDI トレース ログ ファイルにアラームを記録するには、このチェックボックスをオンにし、選択したサービスの Trace Configuration ウィンドウで Trace On チェックボックスをオンにします。</p> <p>Trace Configuration ウィンドウの使用方法の詳細については、P.5-2 の「トレース パラメータの設定」を参照してください。</p>

追加情報

P.3-4の「関連項目」を参照してください。

アラーム イベント レベルの設定値

表 3-2 では、アラーム イベント レベルの設定値について説明します。

表 3-2 アラーム イベント レベル

名前	説明
Emergency	このレベルは、システムが使用不能であることを示します。
Alert	このレベルは、ただちに処置が必要であることを示します。
Critical	このレベルは、クリティカル条件が検出されたことを示します。
Error	このレベルは、エラー条件が存在することを示します。
Warning	このレベルは、警告条件が検出されたことを示します。
Notice	このレベルは、正常ではあるが重要な状況を示します。
Informational	このレベルは、情報メッセージだけを示します。
Debug	このレベルは、Cisco TAC のエンジニアがデバッグに使用するための詳細なイベント情報を示します。

追加情報

P.3-4 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- サービスに対するアラームの設定または更新 (P.3-2)
- アラーム宛先の設定値 (P.3-3)
- アラーム イベント レベルの設定値 (P.3-4)